

「もんじゅ」の点検漏れ問題：

6月6日、点検漏れ問題に関する説明会がテレビ会議で行われました。説明では主な直接的原因に

点検担当課の点検実績や点検期限の未確認、プラント工程検討時の確認不足 不適合管理の徹底不足などを挙げています。

また、ある課においては人員不足もあるようです。人員不足に関しては、「もんじゅ」が動かない状態になってから、予算が大幅に削減され、人手がへり、少ない人手で、大変な数の点検をしなければならなくなったことが、大きな要因になっていると思われる。また、その中「もんじゅ」循環系のC系統の非常用ディーゼル発電機の故障がさらに事態を悪くしたようです。これは、「もんじゅ」では、A,B,Cの3系統のうち、必ず1系統は動いている必要があり、そのため不測の故障に備えて止めるのは1系統だけにしていました。ところが、C系統が運転できない状態になったため、それが動かせるまで、点検に入れなかったというものです。このことは、説明会ではじめて知りました。設計上の保守性の悪さが現れたといえます。

また、運転実施予定を、十分な調整なしに決め、しわ寄せが出たことも見えます。

点検漏れの機器が非常に多かったことは問題ではあります。しかし、それよりも、基本的设计が危ないのではない、基礎的な技術水準が問題なのではないか、などの批判があります。また、「もんじゅ」サイトの活断層も以前から議論がありました。機構は存在を否定していますが、原子力規制委員会の調査が入るでしょう。どうなっていくのでしょうか。

6月20日、団体交渉が行われます

主な議題：6月期一時金、給与削減措置

原子力機構は、6月期一時金について、

昨年7月に強行実施した「給与削減の特例措置」を行うとしています。

一方、我々同様に人件費のほとんどを国からのお金で賄っている理化学研究所(理研)では、一時金について、一律の削減措置ではなく、下位級に対しては削減割合を緩和することにしています。

削減そのものはある程度やらざるを得ないなら、特に打撃が大きい職員層に、いくらかでも緩和措置を取るかどうか、機構に問われます。

しかし、これまでの機構の態度は、「国家公務員と違うことを行って、目立ちたくない」というものでしたので、目に見える譲歩は期待できそうもありません。とりわけ、最近もんじゅの点検漏れとJ-PARCの被ばく事故で批判されているので、なおさらかたくなな姿勢を取ることが予想されます。

もし特例措置の削減を行わないなら、労組は、月数1.9か月で妥協するつもりです。

団体交渉では、退職金の削減問題などについても労組の考えを述べます。

中央委員会を開催します。

第64期最後の中央委員会になるかと思えます。中央委員の皆さんは、万障繰り合わせの上、出席ください。

日時：6月26(水) 18:30～

場所：原科研 原研労組事務所

議題：

最近の状況報告 (J-PARC事故、もんじゅ問題、役員選挙)

6月一時金、

会計四半期報告

その他

役員選出の選挙を実施中

次期の役員を選ぶ大切な選挙です。組合員の皆さんはぜひ投票してください。

東海地区については以下の通りです。

投票日 本投票：6月19、20、21日

時間：10:00～18:30

場所：組合事務所